

授業概要

本授業はヨーロッパ史上最も有名な女性の1人である「ジャンヌ・ダルク」に焦点をあて、「女性らしさ」がどのように作り出され、時代や社会の特徴に応じて変化してきたのかを4部構成で講義する。第1部（第1～2回）はイントロダクションとして、ジェンダー史の意義を学ぶ。第2部（第3～5回）は14世紀以前を扱い、ジャンヌが登場するまでの女性観を学ぶ。第3部（第6～8回）はジャンヌの生涯を時代・社会背景とあわせて学ぶ。第4部（第9～15回）は近現代の世界各地での受容（もしくは非受容）の実態とその理由を扱う。これにより比較史の観点から西洋の地域文化を相対化し、特徴を把握する。さらに、西洋中世のイメージ変遷を知ることで、中世主義についても学ぶ。

授業計画

第1回	ガイダンス：授業概要
第2回	女性史・ジェンダー史とは何か
第3回	古代における女性
第4回	キリスト教の影響
第5回	中世における女性
第6回	ジャンヌ・ダルクの生涯
第7回	ジャンヌ・ダルクの裁判と復権
第8回	中世におけるジャンヌ・ダルク像
第9回	迫害社会としての近世
第10回	近世における女性と国家
第11回	「聖女」ジャンヌ・ダルクの登場とナショナリズム
第12回	世界各地のジャンヌ・ダルク受容①：ヨーロッパ諸国
第13回	世界各地のジャンヌ・ダルク受容②：エジプト
第14回	世界各地のジャンヌ・ダルク受容③：日本
第15回	世界各地のジャンヌ・ダルク受容④：映画におけるイメージ
第16回	筆記試験

到達目標

- ・現代日本にも通じる事例を取り上げることで、ジェンダー規範において西洋の文化的特徴が形成された過程を専門知識に基づいて理解し、現代日本が受けている影響を具体的に説明できる。
- ・西洋中世のジェンダー意識がどのように変容して近代に受容されたのか、また帝国主義の時代にアジア諸国にどのように受容されたのか、幅広い教養として学習し、これを通じて世界各地のジェンダー文化との比較ができる。
- ・イメージの変遷、権力者による歪曲や利用を史資料から検証することでメディア・リテラシーの能力を養い、情報を適切に判断できる。

履修上の注意

高校レベルの世界史の知識があることを前提とするため、西洋史概論を履修済みであることが望ましい。また、ジェンダー史の学習においては自らのジェンダー認識の振り返りが必要であり、そのために授業内での課題としてリアクションペーパー提出を求める。フィードバックに用いる場合、個人を特定する情報を明らかにすることはしないが、不安がある場合は事前に相談に応じる。

予習・復習

授業内で示したキーワードについては十分に下調べをすること。また、学期中に紹介した参考文献から最低1冊は読むことが望ましい。

評価方法

筆記試験 60%、授業内課題 40%

テキスト

特に指定しない。参考文献は授業中に適宜紹介する。